

太 工
同 窓 会 報
第 19 号
平成元年10月27日
群馬県立
太田工業高等学校
同 窓 会
0276(45)4742

同窓会員の皆さまへ

会 長 林 進一
今年は何年にくらべ、台風の発生数が多いようですが、同窓会員の皆様はお元気で御活躍されている事と御推察申し上げます。

我々が通学した内ヶ島校舎から太田市茂木の新校舎へ移転して、はや半年が過ぎました。昭和36年11月に発令されてから平成2年11月で足掛け30年に本校はなります。又、新学科の情報技術科が3年生まで揃い、新校舎や附帯設備も、平成2年に揃います。

そこで、創立30周年、並びに、新築移転記念事業を行う計画がもちあがり、同窓会、PTA、学校後援会の三者により、準備会が、発足した。昭和63年6月と9月の2回、準備会で検討されました。この結果、昭和63年10月に、実行委員会が正式に発足しました。

茂木の新校舎への移転を機会に本校の教育環境の整備充実を図る目的で、環境整備、募金、記念誌

発行、記念行事の四部会が設けられ、各部会が活動しています。

環境充実については、図書館と宿泊室の冷暖房、校舎の夜間照明、体育館の絨帳が決定しております。創立30周年記念事業が成功できますのは、会員皆様の団結と御協力と心からお願ひ申し上げます。

新築移転を終えて

校 長 内田 治太郎
新校舎造成を特命されて、太工に着任し、早三年目になります。

その間、同窓の皆さんからも、多方面より、御協力賜ってまいりました。心より感謝申し上げます。お陰様で、ほぼ順調に、新校舎の建設も終え、本年四月一日に、移転をすることができました。

その後、ひき続き、外構工事も進められております。来年の春には、植樹を含め、完成の運びとなります。平成二年の秋には、太工創立

三十周年、新築移転のイベントを企画し、すでに準備にとりかかっております。

このために、同窓会の立場から、会長さんはじめ、役員の方々を中心に、御尽力を賜っております。今後、会員の皆さんにも、具体的に協力のご依頼を申しあげますが、その節は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

扱て、旧校舎を愛された卒業生の皆さんには、移転後の校舎についても、気がかりと思います。現在、旧校舎は、硬式野球部・ラグビー部・サッカー部等によって、放課後の練習に使われています。

しかし、これも、やがて終わりになります。人が訪れることのない空き家は、外見では、もとのままでありますが、いずれ、太田市の一大企画の中で、消えていくことでしょう。根まわしされた数本の大樹や、記念樹をはじめ、凡そ二百本の木々が、旧校舎の歴史の使者として、春の出番を待っています。

最後の卒業式には、初代嶋岡校長先生、栗野校長先生にも、ご臨席をいただきました。式辞の中でも、旧校舎を賛美しました。

平成元年四月六日には、校旗を先頭に、職員・生徒の、大移動が

行われました。自分の机・腰掛けを柔道帯で、肩の痛みに耐え、汗を流した後輩たちの姿を、想像してください。翌四月七日には、旧校舎にて、最後の入学式を行いました。

新入生は、先輩達が、昨日たどったスキロの道を、学校指定の制服姿で、堂々と新校舎に入りました。保護者にも、新校舎に移動願ひしました。

無常観を胸に秘めつつも、二十八年の礎の上に、太工新生元年の歓喜の声が高鳴ったことを、報告申し上げます。

我田引水ではなく、新装なった太工は、群馬県一新しい校舎と、量・質とも、他の工業高校に勝る、実習機器を配備することができました。この活用に向けて、工業科職員が夏季研修を、内外に組み、延べで百人以上が参加しています。

特に、中学生の急減を認識し、学習・生活・進路の各面で、改善努力に努めております。「東毛に太工あり。」、その意義を、地域にご理解いただくことこそ、本校の大課題と思っております。

同窓の皆さんにおかれましても、旧に倍しまして、ご援助・ご協力を賜りますよう、重ねて、お願ひ申し上げます。

同窓会に思う

教頭 和田 春雄

会員の皆様には元気で活躍のことと推察致します。

私は、今年四月再び本校に勤務する機会を得ました。平成元年度新築移転を成し遂げ、まさに再生を図ろうとするこの期に、かつて自分を教師として育んでくれた本校に着任したことは、まさに母校に帰ってきた感激であり、かつ責任の重さを感じるところであります。

思うに、本校は東京オリソニックの前々年の昭和三十七年春に、第一期生を迎え、仮校舎である金山高等学校跡において教室の天井裏に鳩の鳴声を聞きながらの授業が開始されました。そして九月には田園のど真中にそそり立つ新建築の白亜の殿堂に移り、心も新たに職員・生徒そして父兄が学校造りの努力を続けました。

当時の卒業生の皆様は、すでに四十代になられ、社会のあらゆる場で、最も脂の乗っている中堅階層として、また家庭におかれても、大切な子育てに重い責任を負われているものと思えます。

みなさんの職場での評判はすこぶるよく、毎年本校名指しで求人が寄せられているようです。家業を

継がれた人も立派に家業を發展させ、また新たに事業を起こされた人も立派に成功されておる様子、それぞれ進んだ道は違っても自分の人生を精いっぱい誠実に努力していることがうかがわれます。このような先輩の努力は、後輩である在校生にも良い影響を及ぼすものです。

皆様一人ひとりの人生にとって太工卒のレットルは生涯はなれることはないはずで、そして、母校は母親や、故郷とともに皆さんの心のよりどころでもあります。是非自分の人生を悔いのないものとする努力を惜しまないで下さい。そしていつまでも本校同窓生として母校を愛し、後輩をいっしょにしてください。

最後に同窓会の發展はその母校の發展でもあります。同窓会の基礎は同級会・同期会にあり、それぞれの会の統束はその会の方々の友情に基がりますが、幹事・役員の仕事と努力がなければ、散り散りになった仲間をまとめることは不可能です。幹事・役員の一層の御尽力をお願いするとともに、会員の方々の協力を私からもお願いする次第です。

中国と日本は？

副会長 関 昌三

国際化という言葉が叫ばれると同時に、国際社会に於ける日本の立場として、各企業の海外進出が活発に行われています。

地元にも、三洋電機・富士重工も例外ではありませんが、昨年一月一日付読売新聞のスクープ記事「日・米・中の合併方式により、中国で乗用車の共同生産」を覚えていた人は少ないと思いますが、それに先立つ半年前に、中国第二の自動車(トラック)メーカーの技術者が研修団として太田に滞在していました。

一ヶ月半に亘る彼・彼女等との生活は、私にとって正に「国際化」でしたが、反面、物資に恵まれていた豊かな日本を強く印象づけられた出来事でもありました。

平均的サラリーマンの月収は、日本円で五千円程度という事からする日常生活は、想像すら出来ませんでした。しかし、彼・彼女たちは、どちらかと言えば「エリート」の部類に入るのでしょう。

時折テレビに映る中国の映像は、溢れるほどの、自転車、そしてクラシックカーがいのトラック。そんな中国に興味を持ち、引かれ

て行く私に、間もなく出張命令が下り昨年六月末に、八日間という短い期間でしたが、北京に行ってみました。広い道路に溢れる自転車とトラックは、テレビで見た、まぎれもない中国そのものです。

その中で印象は「共産圏という国でありながら、貧富の差の激しい国、しかし勤勉な国民の新鮮な姿」でした。

そして、私にとっても、悪夢のような六月四日の天安門広場の流血の惨事は、共産圏という事、いやという程知らされました。

日本はどうか？自由主義という名の基に、余りにも自由を吐き違えてはいないでしょうか。子を持つ親としてのみならず、連続幼女殺害事件などは、その良い例で、「自分中心の考え」そのものです。

日本人は勤勉だなどと、世界各国から賞賛された時代から、中傷へと変化をしても、見方を変えれば美化されている事には違いありませんが、実態はどうでしょう。

太工高に例をとれば、県下一の立派な校舎・設備と言っても、披て中味はどうかと問われた時に・・・

胸を張れる太工高とするために、関係をすすめる方々と共に、同窓会も微力ながら頑張る所存です。

旧校舎に思う事

8E三洋電機 藤掛幸雄

今から二十年前、昭和四十四年春に校門を初めてくぐった時は、何と大きく、近代的設備な学校であると思えました。それが、平成となった春に、茂木地区に全面移転したと聞き、何か母校がなくなつた様な気がします。

後輩達の学業と、学校発展のために、広く充実した環境の基で学べる事は、大変良いのですが、卒業生にとっては、想い出を辿り帰る故郷がなくなつた様です。夏の暑い日に実験室の回りを草むしりした事、先生に叱られ立たされたあの廊下、部室の壁の開いた穴など、学生時代に辛かった事が、数年前に行った工業祭で何年たつても変わらない母校と共に思い出されました。変わらぬ先生達の横顔も、学校へ行くと呼んでくれます。それが母校であると、六千名を越えた同窓生の一人として考えます。しかし、新校舎で新学科も増設され、社会のニーズにあつた学業をしている在校生は、良いチャンスを得た事を誇りとし、ひとまわり大きな人間になつて欲しいと思えます。

そして、太田に太田工業高校あ

りと言われる学風を造り、沢山の、絆を得て欲しいと願います。

会社に入って

25M富士重工 桜井行男

これから会社に入社し、働いてお金をもらい生活をするのかなどと考えると、なぜか学校時代にもどりたいような気持ちになつた。入社してからもう五ヶ月くらいになるけれど、いよいよの一カ月は何がなんだかよくわからないうちに新入社員教育訓練や、2泊3日の研修、歓迎会などがあつて、毎日が学生時代とはぜんぜんちがつてとても大変でした。

ぼくの職場は、試作の単一係といい、主に試作車の板金作業です。毎日、溶接、ハンマ、ハサミ、ヤスリなどを使って仕事をしています。先輩とかは、とても親切で、家庭的ふんい気があるので、とても毎日が充実しているような気がします。これからは、会社の中の先輩とかも見習い、努力していきたいと思ふ今日このごろです。

私の現状報告

12E三洋電機対比地 恒夫

昨年の福島県の新野地温泉に続き、今年には栃木県の塩原温泉と高校時代の同級生四人と行ってききました。昨年に続き二回目というところもあり、二日前に旅行先が決定するという強行スケジュールではありましたが、予定通り行動することが出来ました。今では中々会うことができませんが、一年に二回、旅行と忘年会を行つており、忘年会については、今年は私の幹事ということもあり、今から頭を悩ましております。学校を卒業してからお互い別々の社会に飛び出しは、十数年が経ち、改めて現在友達の大切さというものを知つた様な気がします。これからは、お互いにいいことがいえる友達であり、おつきあいをしたいと

話ばかりですが、二十代には趣味が野球でしたが、三十代になり趣味もゴルフに変わりました。今では月一回の実戦と週一、二回の練習という様に、ゴルフに明け、ゴルフに暮れるといった状況です。性格が左右するといったゴルフ、短気な私にとっての欠点は、一つミスしだすと連発してしまふという

ことです。性格を変えることはむずかしいことではありますが、ゴルフをする時には、気長に気長にをモットーに現在励んでおります。もし機会がありましたら、OB会等でゴルフを開催していただけたらなと思つておりますので、よろしくお願い致します。

最後に、クラス会等是非開催してはしいと思つております。もう何年も会つていないので、近いうちには是非会いたいですね。またまらない文章ではありましたが、今後ともよろしくお願い致します。

入社から現在まで

23C富士重工 青木陸晴

私は昨年四月富士重工に入社しました。まだ一年と七ヶ月しかたつていませんが、入社から現在までの感じのままを書きます。

私は富士重工の採用試験を受け技術職という仕事につくことになりました。しかし、最初の二ヶ月間は現場実習という事で、矢島工場勤務となりました。



機装課での仕事は、リヤサスの取り付けをやりましたがやはり現場での仕事はつらく、いやになりました。しかし、みんなのがんばっている姿を見ると、自分もがんばろうと思ひ二ヶ月間やってきました。

あつという間に、二ヶ月がすぎてしまい現場実習を終え、現在、技術本部の材料研究部で塗装材料関係の仕事を担当しています。

仕事はおもに車のボディの塗装に携わる試験や開発の仕事です。塗装の事を何もしらなかった私は不安でした。でも担当内の人達が親切に塗装関連の事など教えてくれたので、不安な気持ちも少し和らぎました。

最初のころの仕事は、塗装に関する本や規格類を読んだり、担当内の人の仕事の手伝いをやっていましたが、現在では、テーマをもらいそのテーマをこなしています。しかし、わからないことばかりで、先輩に聞いたり、手伝ったりしてもらい迷惑ばかりかけています。

まだ一人では仕事はできないし、塗装の事もわかりませんが、これからもたくさん勉強し一人前の仕事ができるように、がんばっていきたいと思ひます。

「母校・同窓会に、物申す。」

三M定 青木 秋仲

平成元年、新しい元号のこの年に母校が全面新築移転、かつて無い、最新鋭の設備機器の数々お祝い申し上げます。

卒業後、十数年、全面移転と聞き母校、太田工業高校に思いをほせ、移転先、太田市茂木地内、自社工場より二キロ余りの場所、移転後数ヶ月、母校の風紀の情けなさを痛感致しております。

卒業生の皆さん、母校に目を向けて下さい。一度は新校舎に足を向けて下さい。素晴らしい校舎です。この一言で済めば良いのですが、何と言っても、同窓生(私)の目に余る位です。学生服のまま二人乗り、後では喫煙、ほとんど毎日の登、下校時の学校から二キロ位の場所の風景です。ぜひ一度来校し我々の母校の有様を見てはどうでしょうか。この様なこと、ごく一部を生徒だと思ひます。

また生徒指導で先生諸師の努力中とのこと痛感しております。

同窓生(卒業生)として一言、物を申しておきたい。

又、ここ数年間、同窓会常任幹事会(総会)に出席し、幹事(同

窓生)の参加、数名、これでは同窓会は無きに等しい位です。

常任幹事は元より、同窓会本部役員会の根本的改革をお願いしたい。平成元年度常任幹事会、総会(平成元年六月三十日)もあの思ひ出多き、三角屋根の体育館で行うとか、どうかか考えてはしかなかった。

我々は一生太工卒業生です。そのことをもつと深く感じ考えて下さい。

同窓会、発足後二十数年、本部役員はごく一部の人の努力に委ね現在までできている。来年開校三十周年を迎えるに当たり、どうなるのか同窓会と言葉を大にして言いたい。

又常任幹事として名を連ねている方々ぜひ一度は来校すべきです。どうしても出来えないのなら、貴男の代わりの方にお願ひして下さい。

数年前の甲子園出場時の同窓会をもう一度・・・私事ですが、定時制出身だから、学校を思う気持ち強いのでしょうか。

前項に書した様に私達は一生太田工業高校卒業生何期生、何年卒業ですと世間で言うはずですが、あまりの校風の為か私の知人で、「太工卒と言わず、中卒です」と

言っている人に最近会いました。それまで本当に中卒かなと思ひていました。

最近の母校を知らず(深く)書いた感があります、少なからず、私の目に止まったことのいくつかを書いて見ました。

貴男はどう思ひますか・・・? 現在の母校の有様。最後に三十周年記念を迎えるに当たり、素晴らしい校風を実現して、県下に誇れる、県立太田工業高等学校にして下さい。私も協力致します。

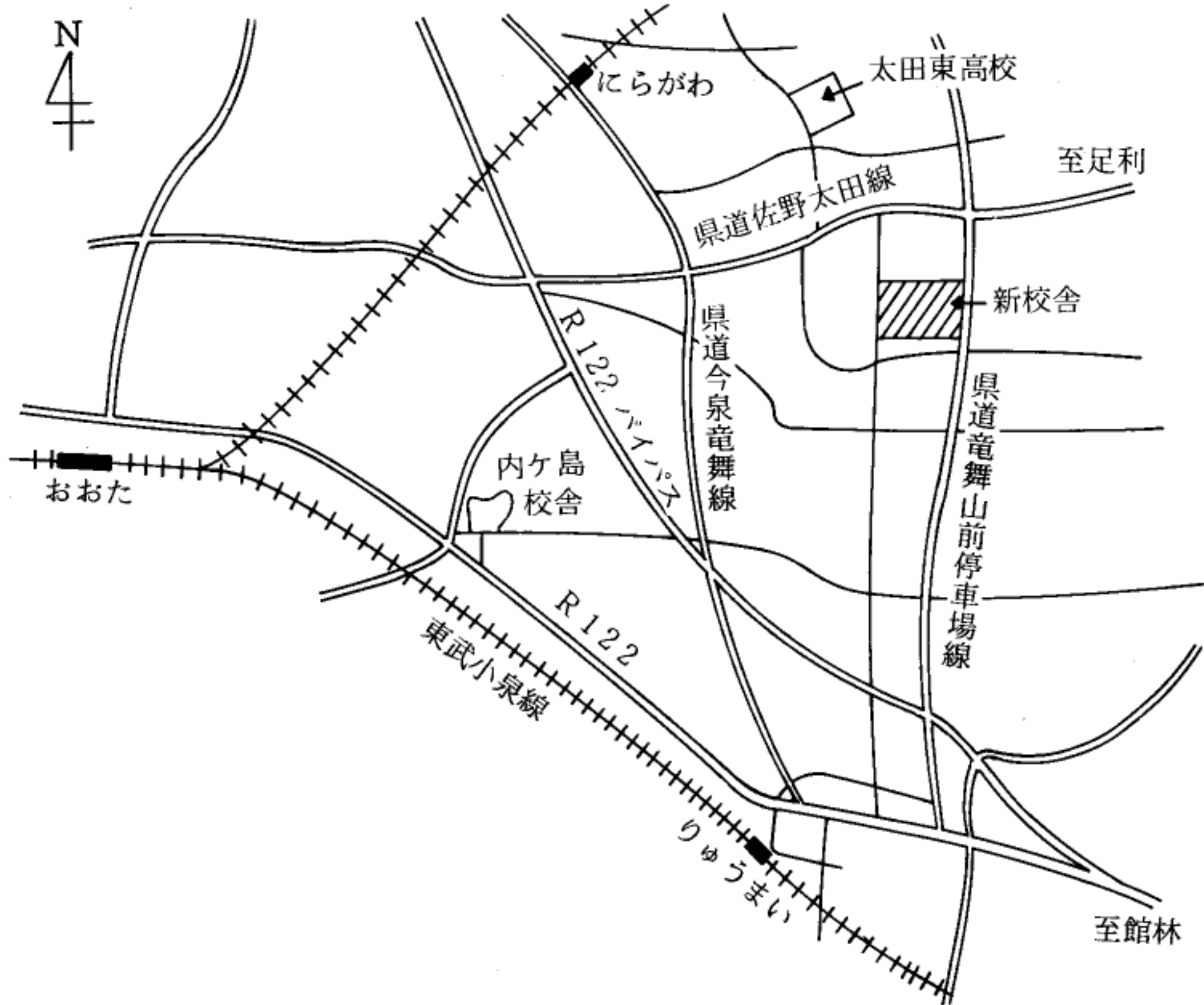
機械科の紹介

科長 金井 恵三

本校は昭和三十七年四月に開校した。その後、建物は武道館、図書館と整備された。科のほうでは、昭和四十九年、二階建の産振棟が増築され、それに伴い、実習設備が新規導入された。

機械科関係では、ねじ転造盤、彫刻盤、プレス機械、ポイラー実験装置、空気圧実験装置、油圧実験装置等が導入された。開校から十余年、当時は凄ひ装置が導入されたものだと思ひました。それから十余年、技術の進歩は更に著しく、マイクロエレクトロニクス技術、新素材、バイオ技術等

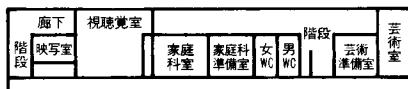
(5)



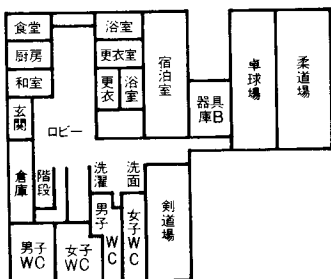
新校舎建設地略図
太田市茂木三八〇番地



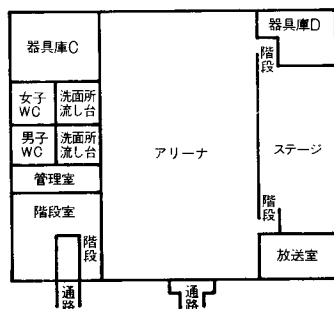
管理棟4階



体育館1階



体育館2階



のいわゆるハイテクが要求されるようになってきた。情報化の時代を迎え、昭和六十二年、情報技術科の増科が決まり、本校も手狭となり、この度の茂木地区への移転が決定した。全面移転を契機として、機械科では、機械の各分野の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現在のハイテクの時代にも対応できる、工業人としての生徒の育成を指導目標のひとつとした。そこで、CNC旋盤、マシニングセンター、産業用ロボット、レーザー加工機等を新規導入した。CNC機械の導入により、より一層ハイテクの指導をすると同時に、資格、検定等の取得の指導にも意欲的に取り組みたい。

電気科の紹介

科長 齊藤 勝三

画期的なことだと思えます。逆に多少心配な点としてコンピューター実習の時間数が多くなり、他の教科とのアンバランスがでてくることではないかとおもいます。電気科は電気一般の基礎の勉強が教育方針なので、生徒からみた場合に多少興味がりすぎがちな強電関(係)モーター、変圧器、高圧現象の授業・実習も手を抜くことなくバランスを考えて指導していく方針です。ただ時々刻々変化するハイテク、エレクトロニクスの時代を迎えてどの分野においても大変な時代になったなというのが実感です。しかし、この中から取捨選択し生徒にとって真に身につく技術教育をめざして頑張っていくつもりですので今後とも御支援をお願いいたします。

工業化学科の紹介

科長 小島 正三

今回の移転の際に、いくつかの古い設備を新しい設備に切りかえたのですが、その中で特に注目すべきものにパソコン四十台の新設があります。今までは一台のミニコンで人数・内容等で大幅な制限をうけながらの実習であったため思うような実習ができなかったのが実情でしたが今度は全員が一度に実習ができるというのはまさに

化学工業は広範囲の高度な技術がシステム化されて成り立っている一大素材産業です。そして、これらの製品は各企業の原材料として広く利用されている。さらに、これらの技術は生命工学・公害防止などに広く応用されている。工業化学科では、一大素材産業を支え、環境保全や素材を応用する

平成元年10月27日

技術を習得するため、まず、物質の性質や化学的・物理的变化の基礎を学習し、また、原材料・製品の分析や分離・精製技術、電気・熱エネルギーや装置・機械の制御・管理など幅広く学習する。さらに、工場のFA化に対応できるようコンピュータを使用しての情報技術の学習、新たに導入した製造プラント装置による実習を通してコンピュータ制御や総合的技術の学習を行っております。

さらに、資格取得の指導にも力を入れ、特に、計算技術検定、危険物乙種、電気工事士の指導体制の充実に努めています。また、機械科の協力でガス溶接の資格を取得する生徒も多い。今後、情報処理技術の資格取得の指導にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

情報技術科の紹介

科長 鈴木 久市

情報技術科は平成元年九月一日現在、一年生七十六名と二年生十六名の生徒が在籍しています。各学年とも二学級の構成で、地域の要望に充分こたえられるものです。職員は七名、来年度は三学年まで揃うのでさらに増員になる予定です。新設の学科ですから職員

も生徒も大いに頑張つて学習に実習に取り組んでいます。一年生の実習では電気基礎実習・マイクログコンピュータの製作とプログラミング実習・シーケンス制御実習などが実施されています。二年生ではパソコンを使用したプログラミング実習・各種ソフトウェアの取り扱い・電子基礎実習・NC機械の制御実習などが計画されています。また、情報技術科の設備はホストコンピュータに日本電気(株)製ACOS・300システム、端末機としてPC・801UX21が42セット導入されました。また、自動設計製図装置として富士通(株)製EWS・CADシステム(FA用)が2セット、パソコンCADが10セット設置されています。その他、NC制御実習用として、NCロボット・NCボール盤・NC旋盤など多数備わっています。

情報技術科では、これらの実習設備・装置を有効に活用し、未来に向かって羽ばたく中堅技術者の育成を目標にしています。

平成元年8月末現在 進路状況

本年八月末現在の求人会社数一五〇〇社余りその内県内三九〇社、昨年度がおよそ一〇〇〇社であるから一、五倍程度である。大企業

は例年なみであるが中小企業の求人数が多い。毎年のことであるが富士重工・三洋電機を除く大手企業は求人数を厳選してある。今年就職希望者の中に何人か縁故というのがあるがその一例として友人の家に就職するというのがあるがこれは正規の方法ではないとも高卒者を採用出来そうもないという事で子息の友人に直接アタックという感じとも取れる。また表具屋、

◎過去5年間の就職情況と本年度の予定

	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度
卒業生数	229	230	227	231	222	219
就業者数	172	157	153	149	163	151
就職率	75.1%	68.3%	67.4%	64.5%	73.4%	68.9%

本年度就職希望者(151名)の内 県内121 県外30
学校依頼 134 県内108 県外26
縁故 12 県内8 県外4
自営 5 県内 (就職希望者で未定のものなし)

学校だより

職員異動 平成元年四月

- 小林 季二先生(教頭) 藤工へ
- 長浜 清光先生(電気) 退職
- 伴場 茂先生(機械) 退職
- 田島 篤先生(事務) 退職
- 松村 正史先生(音楽) 高商へ
- 次(の)先生方は新任の先生です。
- 和田 春雄先生(教頭) 館高より
- 七原 登先生(国語) 新任
- 桑谷 寿長先生(情報) 新任
- 阿佐美 斉先生(情報) 藤工より
- 大塚 正美先生(情報) 新任
- 林 剛嗣先生(音楽) 新任
- 本田 弘二先生(事務) 板高より
- 次(の)先生方は講師の先生方です。
- 長浜 清光先生(電気)
- 吉田 久男先生(電気)

編集後記

母校も、校舎の新築・全面移転にともなう事業に取り組んでいます。が、同窓会員皆様の御支援御協力を、心より御願ひ申し上げます。

(関記)